

**「きんしゃいきやんばす」の仲間集団に関する研究
—その社会化機能と成功要因に着目して—**

九州大学文学部 社会学・地域福祉社会学専攻

<要旨>

現在は少子化・核家族化・共働き家庭の増加などにより、地域コミュニティは急速に衰退していると言われている。そのため、以前までは行政に対するニーズの主たるものとしては挙げなかったものが緊急の解決を要する問題として多くの自治体が抱え込むようになり、莫大な資金と労力・時間をかけて取り組まねばならなくなった。

その中でも筆者が特に危惧しているのは、「地域」が学校や家庭に並ぶ教育機関としての役割を果たすことができなくなってきた点だ。各面で「地域から子どもの声が消えた」とか「子どもは子ども時代を失った」とか言われるようになり、子どもがたくさんの友達に囲まれて、いきいきと遊び、色んな実体験を積みながら成長し、情緒豊かで愛情豊かな大人に育っていくということをイメージしにくくなった社会になったと筆者は思う。

現実的には、以前まで存在していたような「地域における遊戯活動・仲間」の役割・存在をそのまま復元することは不可能かもしれない。それならば、なんらか同様の役割を担うものを設けなければならないが、そのための活動が全国各地でも盛り上がってきており、さまざまな活動が展開されている。

こうした問題意識・現状把握のもと、本論文においては、子どもが集団の中においていかに社会化されていくのかということを中心に「きんしゃいきやんばす」という「子どもの遊び場・居場所づくり」活動の1つの成功例において起こった具体的事例を挙げながら、子どもの遊び場・居場所・成長の場のあり方を考えていきたい。

<目次>

はじめに	1
第1章 社会化の意義・必要性和非社会化傾向にある子どもたち	3
第1節 社会化の意義と必要性	3
(1) 社会化とは	
(a) アヴェロン野生児「ヴィクトール」	
(b) 狼に育てられた少女「カマラとアマラ」	
第2節 子どもを取り巻く生育環境の現状・問題	5
(1) 子どもたちの異変	
(2) 非社会化傾向にある子どもたち	
第2章 集団と社会化過程	12
第1節 社会化と集団	12
第2節 仲間集団の定義と特徴	13
第3節 社会化のステップはいかにしてふまれていくか	14
(1) 親との関係による社会化	
(2) 「他人性の存在」の気づき	
(3) 「一般化された他者」による社会化	
(4) 「一般化された他者」の変容	
第3章 子どもの遊び場「きんしゃいきやんばす」	21
第1節 「きんしゃいきやんばす」のはじまり	21
第2節 「きんしゃいきやんばす」の特徴	22
(1) 対等性	
(2) 日常性	
(3) 開放性	
(4) Win-Win の関係性（大学生にとっての居場所意識＝非自己犠牲意識）	
(5) 半解放空間	

第4章 「きんしゃいきやんぱす」における実際の社会的相互作用	
第1節 調査概要	33
(1) 調査目的	
(2) 調査対象	
(3) 調査手法	
第2節 きんしゃいきやんぱすにおける社会的相互作用の実際	33
(1) 同年齢の子ども - 子ども：「水平的ソーシャライザー関係」における社会的相互作用	
(2) 上級生 - 下級生：「垂直的ソーシャライザー関係」における社会的相互作用	
(3) 子ども - 大学生：「垂直・一方的ソーシャライザー関係」	
第5章 考察 — 「きんしゃいきやんぱす」の「子どもの遊び場」としての機能とそれを支える要素	41
第1節 「きんしゃいきやんぱす」における相互作用の社会化機能	41
(1) 「他者性の存在」への気づき	
(2) 「一般化された他者」の内面化	
(3) 「一般化された他者」の変容	
第2節 子どもの遊び場・居場所づくりの活動に必要な要素	44
— きんしゃいきやんぱすの成功を支える特徴と社会化機能の考察を参考にして—	
参考文献・資料一覧	46
おわりに	49